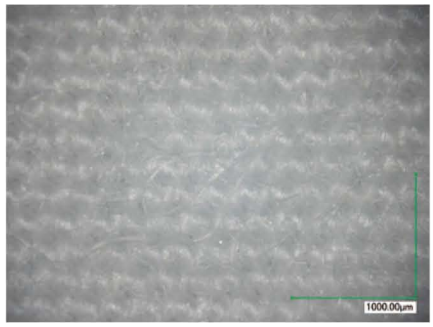
阪上織布（さかうえしょくふ）株式会社

超高密度織物の新技術を新たな分野へ展開

企画力自信有
オンリーワン技術



繊維が詰まった超高密度織物

業務内容 受託生産に特化して技術力を磨き上げる

苦戦が続く繊維業界にあって、独自開発の製織技術で大きな注目を集める老舗織物工場がある。泉南郡熊取町に本社を置く阪上織布だ。昭和26年の創業当初は、自社で糸を仕入れて生地を生産・自販していたが、昭和40年代より経営方針を転換。在庫を持たない受託加工方式に特化し、技術力の研鑽を重ねてきた。

近頃は海外新興諸国にも最新織機が導入されているため、機械性能のみに頼った従来型の製造では勝てないと考える同社。「織機の能力を高める織機部品を自社で開発・製造する等、機械の初期性能に頼らない技術力を育んできました」と阪上社長は言う。

強み 他社には真似のできない「高密度織物」技術を開発

このような企業姿勢から生まれたのが「超高密度織物」である。糸と糸の隙間を極限まで最小化して織り上げるオンリーワン技術。特別な糸を使うことなく、一般的な綿・合繊糸で織り上げられるのも大きなポイントだ。

「開発のヒントは100年前の文献の中にありました」と阪上社長。「繊維産業が最も盛んだった当時の理論をもとに、現在の材料に置き換えて考えることで、製織理論を更新したのです」。社内で試行錯誤を繰り返した末、ついに新技術が完成。擦れ合う糸の摩擦耐性を高め、独自の方式で素材を細かく織り込むことで、従来のカバーファクター（織物の緻密度）を20%も上回る高密度織物が誕生したのだ。

技術の可能性 高強度・遮熱・遮光…用途の可能性は無限大

この技術は、同社の可能性を大きく広げることに。例えばバッグ用の特殊な生地。強度が高く軽量化を図れるメリットから、大手繊維メーカーと共に製品化が進められている。また繊維の隙間が小さく断熱・遮熱効果も兼ね備えることから、防火衣等としての開発も進行中だ。この「平織製織技術の高度化による防火衣軽量裏地の開発」事業は、平成24年の「中小ものづくり高度化法に基づく特定研究開発等計画」（近畿経済産業局）にも認定された。

その他、表面の均一性が高い「整理加工用ラッピングクロス」等、これまでにない新たな用途開発も本格化している。

今後の展望 顧客が抱くニーズを捉え的確な提案で応えたい

同社では、今後も受託生産方式による事業展開を継続していく方針だ。「繊維メーカーが抱える問題をきちんと把握し、超高密度織物を始めとした適切な製織技術を提案できる〝課題解決型企業〟であり続けたいですね」と阪上社長は話す。

出荷時の品質には徹底的にこだわる

COMPANY PROFILE 阪上織布株式会社

大阪24

当社の歴史

当社の大きな転換点となったのがリーマンショック。受注は激減し、ほとんどの織機を止めなければならない状態にまで落ち込んだのです。しかしその空いた時間を活かし、東京の国立国会図書館へ足を運んで過去の文献を研究しました。その結果生まれたのが今の「超高密度織物」。あきらめず前向きに進むという姿勢が、当社の社風です。

壁にぶち当たったときこそチャンス。止まっていても仕方ありません。

代表取締役 阪上 和平さん

■主な事業内容
織物製品の委託製造・加工 等

■主な取引先（納入先）
繊維資材メーカー 等

住　所／〒590-0450
泉南郡熊取町大宮
3-1525-1
ＴＥＬ／072-452-1161
ＦＡＸ／072-452-1162
創　業／昭和26年6月
設　立／昭和32年6月
資本金／1,000万円
従業員／19名

http://sakaue-w.jp/